

子ども科学技術白書2009年度版『エネルギー問題に立ち向かえ』の誤解を招きやすい表現について

本書の一部で、エネルギーについて誤解を招く可能性のある表現がございました。次の通り訂正させていただきます。本書を使用してのご指導などの際には、ご注意ください。

【訂正1】 p9 「エネルギー資源って、どんなもの？」の解説文“その他”

また、動物のふん尿や落ち葉など、生物資源(バイオマス)からできるエネルギーは、使えばなくなるが、もとは太陽のエネルギーで育つ植物から得られるため、再生できる。



また、動物のふん尿や落ち葉など、生物資源(バイオマス)からできるエネルギー資源は、使えばなくなるが、もとは太陽のエネルギーで育つ植物から得られるため、再生できる。

【訂正2】 p13 第一コマ目セリフ

こうして得た電気やガスなどのエネルギーは、使ったらなくなってしまふ。



こうして得た電気やガスなどのエネルギーは、一度使えば回収できなくなってしまふ。

【訂正3】 p13 下段のまとめ事項

◆エネルギーは使うとなくなる。 ◆エネルギー資源には限りがある。



◆エネルギー資源は使うとなくなる ◆地球上のエネルギー資源には限りがある。

【補足事項】

エネルギーはさまざまな形態に変化しますが、エネルギーそのものがなくなることはありません。しかし、資源を使って取り出したエネルギーは、その一部または大部分が、再利用の難しい熱エネルギーに変化し、放出されてしまいます。このため特に人間の使用目的においては、「エネルギー資源は使うとなくなる」または「一度使ったエネルギーは回収できない」がより正確な表現です。